Architectural Institute of Japan

日本建築学会大会学術講演梗概集
（東北） 2009年 8 月

ワークプレースにおけるコミュニケーションに関する研究
ドラマ「The West Wing」を事例として

コモンスペース　コミュニケーション　ファシリティマネジメント　正会員　○北澤　美奈**
ドラマ　庁舎建築　同　加藤　彰一*

Abstract
This study focuses on the employee communication in a government office. Existing research findings indicate that communication is closely related to work style. Through the analysis of communication in decision-making, a guideline showing the relationship between environment and behavior of individuals in office building is sought for the planning and design of future office buildings.

1. 研究の背景と目的

公共施設は昨今の財政難によって、自治体は公共施設を今までのように、建築物の更新を繰り返すことは難しい状況にある。こうした動向に対して、ワークスタイル特性からオフィス計画を見直す研究がなされている。

既存研究ではコミュニケーションがワークスタイルの指向性を決定づける要因であることを示しているが、コミュニケーションの発生要因については十分な研究がされているとは言えない。そのため本研究では、行政機関を対象としてドラマにおける職員のコミュニケーションを観察調査することで、行政機関でのコミュニケーションの実態を把握し、意思決定におけるワークプレース設定の要因を分析する。そして、コミュニケーションの発生に影響を与える要因を明らかにし、今後のワークプレース研究の基礎とすることを目的とする。

2. 調査対象および方法

本研究では、アメリカ政府の行政機関であるウエストウィングを舞台に、職員の活動を描いたドラマ「The West Wing」を用いて、行政機関における職員のコミュニケーション活動の実態を調査する。

媒体中から建築的な環境を読み解く手法は、文学作品において、記述から建築的要素を抽出する方法がある。また、映像と建築計画の関係性を考察する試みとしては、場面における空間要素の抽出を行った研究がある。

本研究では既存研究を踏まえ、執務空間におけるコミュニケーションの場面を抽出し、主軸となる話題別に分類し、ワークプレースに対する要求因子を分析し、コミュニケーションの発生要因を考察する。

3. 調査結果

図 1 はドラマ「The West Wing」におけるウエストウィングの平面図を示している。政治の中心となるのは大統領が政務活動を行うオーバルオフィス（図 1-⑤）である。

しかし、空間構成ではホール（図 1-③）とルーズベルトルーム（図 1-④）がウエストウィングの中心となっており、政策ブルペン（図 1-②）の中央通路やルーズベルトルームを囲む廊下はスタッフの業務動線となっている。

スタッフが日常業務を行う場所として政策ブルペンと広報ブルペンがある。図 2、図 3、図 4 に政策ブルペンでのコミュニケーション事例を示す。

図 2 は廊下から入り、政策ブルペン内を移動しながら業務を行う様子を示している。図 3 は政策ブルペンの中央通路で立ち止まり、パーティションを挟んで会話をした後、移動をしながら会話をしている様子を示している。図 4 は廊下から入り、政策ブルペンの中央廊下で立ち止まり、中央廊下で新たなコミュニケーションが発生している様子を示している。図 2、図 3、図 4 に示すように、政策ブルペンにおいて、登場人物が会話を行っている様子が監察された。政策ブルペンでのコミュニケーションを会話内容で見ると、「要請」「情報交換」「雑談」が行われていた。中でも特に「情報交換」が多く、対話による業務活動が見られた。

これらのことから、政策ブルペンは業務以外にコミュニケーションを行う場所として機能しているといえる。

コミュニケーションが生まれる要因として、外的な影響因子と内的な影響因子が考えられる。外的な影響因子としては、空間の内外を隔てる建具やパーティションによる緩やかに連続した空間構成によって、業務領域の混在とパーソナル空間の流動化が生じていると思われる。

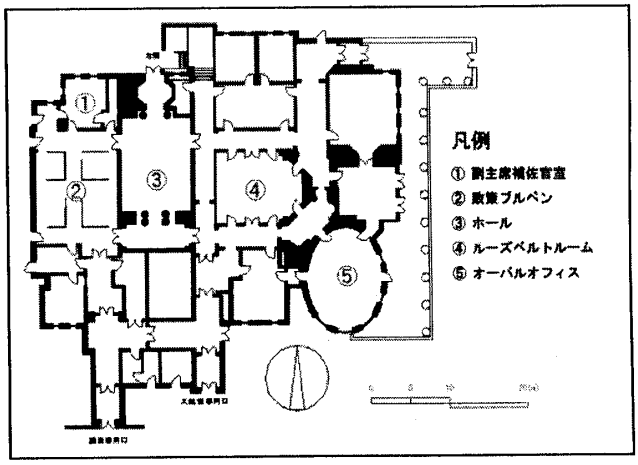


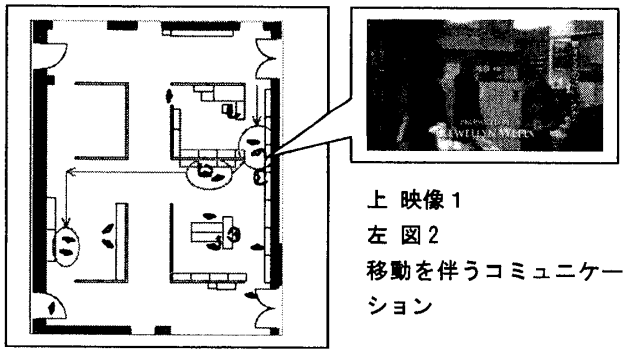
図 1. 「The West Wing」におけるウエストウィング平面図

Research of communication among Employees in Workplace
Case Study of American TV drama "The West Wing"

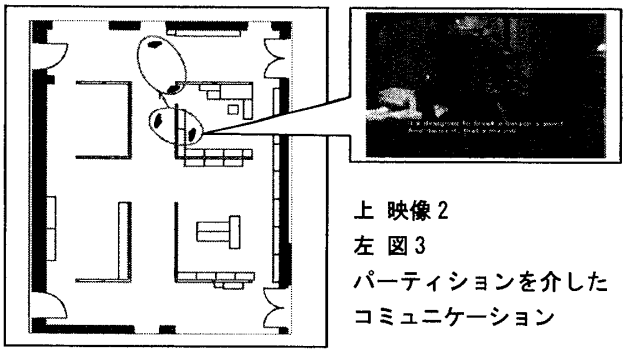
KITAZAWA Mina, KATO Akikazu

NII-Electronic Library Service

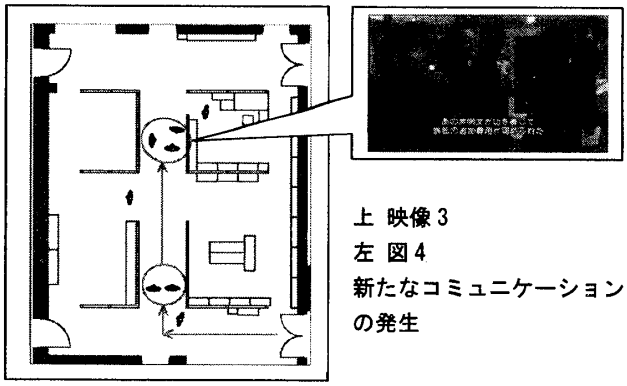
Architectural Institute of Japan



上 映像1
左 図2
移動を伴うコミュニケーション



上 映像2
左 図3
パーティションを介したコミュニケーション



上 映像3
左 図4
新たなコミュニケーションの発生

表1. コミュニケーションの発生要因

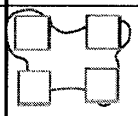
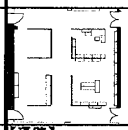
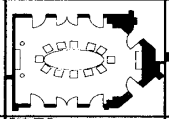
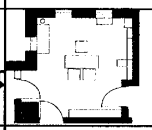
	政策ブルペン	ルーズベルトルーム	副主席補佐官室
用途	事務、通行	会議、応対	事務、応対
空間の分節	ガラスのパーティションで視覚的に分節	なし	個人デスクによって公私を分節
模式図			
レイアウト図			
ワーカー間の交流を生み出す要素	【通路】 移動、立ち話 空間をつなげる 【パーティション】 遮る、結ぶ プライバシー	【建具】 招き入れる、開閉 空間を拡げる 【テーブル】 人を集める、繋げる コミニティ	【建具】 空間を閉じる・開く 人間関係を示す 【照明】 居所を知らせる

表1に各空間特性と、コミュニケーションを生み出していると考えられる装置による発生要素をまとめた。

ドラマ「The West Wing」で、職員間の関係性を方向付ける物理的要素として次の2つが考えられる。

第1の要素は、空間をつなぐ「通路」である。ドラマではホールや廊下、ブルペン内の移動にはコミュニケーションが伴っている。移動を伴うことで、静止している状態よりも会話行為に向き合う姿勢が砕けたものになり、心理的にフラットな関係になりやすく、インフォーマルなコミュニケーションが発生すると考えられる。

第2の要素は「建具」である。建具の閉鎖によってプライバシーが確保された空間は、それを開放することによって開かれた空間に変わり、内部から外部へ気配を伝えると同時に、 外部から内部へ人が入りやすい状況を生み出している。

ドラマ「The West Wing」では、部屋に入ってもいい合図としてルーズベルトルーム（図1－④）や個人オフィス（図1－①）の建具を開放しているシーンが多く、内部へ人が集まり、相乗的にコミュニケーションが活性化されていく場面がみられ、登場人物の意思表現手段として用いられていた。

4. まとめ

情報は心理的な要素が強く、人によって受け取り方が異なる。授受する人物の関係性によっても意味が変わる。ワークプレースでの外的要因がコミュニケーションの発生に影響を与える要因について述べたが、意思決定プロセスからコミュニケーションの発生要因をみると、情報の量や質、人間関係いった職員の内的要因も影響しているように思われる。今後さらに、情報とワークプレースの関係について、またどのようにワークプレースの計画に取り入れるのかという展望を考察していく必要がある。

参考文献

1） フランクリン・ベッカー著加藤彰一訳「トータル・ワークプレース」ファシリティマネジメントと弾力的な組織」（株）デルファイ研究所

2） ロル・ピーター他：「オープンプランオフィスを事例とした多様化するワークスタイルの現状分析と予測に関する研究 ： 予測的ファシリティマネジメントに向けたワークスタイル発展モデル」日本建築学会計画系論文集、第594号、33-38、2005

3） 前田愛「都市空間のなかの文学」ちくま学芸文庫

4） 吉武泰水：「ソルジェニーツインの“ガン病棟”について：建築学計画学への試み」鹿島出版社、1987

5） 竹宮健司他：「闘病記にみる入院患者の生活様態に関する考察：ホスピス・緩和ケア病棟の療養環境のあり方に関する研究その 1」日本建築学会計画系論文集、第503号、93-99、1998

6） 田口徹也他：「小津映画『お早う』の住宅におけるコミュニケーション・シーンについて：建築計画のための空間シーンの構成及び分析に関する基礎的研究」日本建築学会計画系論文集、第603号、23-28、2006

*三重大学大学院　工学研究科　教授　工博
**三重大学工学研究科 博士前期課程

* Prof., Graduate School of Engineering, Mie Univ., Dr. Eng.
**Graduate Student, Graduate school of Eng, Mie Univ.

NII-Electronic Library Service